

2014年7月4日

各位

## 積水ハウス株式会社

### 「第8回キッズデザイン賞」6部門で6点の受賞 賞の創設以来、積水ハウスは8年連続で受賞達成

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は、7月4日(金)に発表されたキッズデザイン協議会(内閣府認証NPO、本部:東京都港区)主催の「第8回キッズデザイン賞」において、健やかな生活を実現する 空気環境配慮仕様「エアキス」、子どもの生きる力を育むまち 子育て世帯応援タウン～ニックガーデンコート花水木～、震災で得た教訓を生かした 子どもと女性にやさしい「おりひめトイレ」など、計6部門で6点のキッズデザイン賞を受賞しました。当賞の創設以来、8年連続の受賞となります。

キッズデザイン賞は「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。乳幼児用品や玩具などの子ども向けの製品・サービスに限らず、大人向けのものでありながら子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動なども対象としており、受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。

なお、8月4日(月)には全受賞作品272点の中から最優秀作品として「内閣総理大臣賞」1点の他、「経済産業大臣賞」「少子化対策担当大臣賞」「消費者担当大臣賞」「キッズデザイン協議会会長賞」及び特別賞等が発表される予定です。



KIDS  
DESIGN  
AWARD  
2014

受賞作品は下記の通りです。各作品の詳細については次頁以降を参照ください。

#### <子ども視点の安全安心デザイン>

##### 子ども部門

- ☆ 子どもの生きる力を育むまち 子育て世帯応援タウン～ニックガーデンコート花水木～  
(所在地:愛知県一宮市)

##### 一般部門

- ☆ 健やかな生活を実現する 空気環境配慮仕様「エアキス」

#### <子どもの未来デザイン>

##### 感性・創造性部門

- ☆ 子どもの生きる力を育む家「コドモイドコロ」の実践

#### <子どもの産み育て支援デザイン>

##### 個人・家庭部門

- ☆ 安全安心で楽しい子育ての分譲マンション:グランドメゾン/ライフスタイルオプション

#### <未来を担う消費者デザイン部門>

- ☆ 子どもの生きる力をはぐくむ「弁当の日」応援プロジェクト (※)

#### <復興支援デザイン部門>

- ☆ 震災で得た教訓を生かした 子どもと女性にやさしい「おりひめトイレ」

(※)「弁当の日」応援プロジェクトとして応募【事務局:㈱共同通信社、参加:積水ハウス㈱、キッコーマン㈱、クリナップ㈱、住友生命保険相互会社、全国農業協同組合連合会、東京ガス㈱、ハウス食品グループ本社㈱、はごろもフーズ㈱】

## ■各受賞内容について

### ☆ 子どもの生きる力を育むまち 子育て世帯応援タウン～ニッケガーデンコート花水木～

(所在地:愛知県一宮市)

子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門

ニッケガーデンコート花水木は子育て世帯をサポートし、安全に生活できる賃貸住宅で構成された90世帯のまちです。「積水ハウスのキッズでざいん」の思想を軸に「子育て」「子育て」「子育て」「スマートユニバーサルデザイン」に配慮した賃貸住宅です。

コミュニティハウスやビオトープ等を設置することで、同世代の活発なコミュニティが生まれ、結果としてそれが「ひとえん」となり、防犯性を高めています。

建物性能では、最新の防犯仕様や防音仕様、空気環境への配慮等、母親の育児ストレスを軽減させるアイテムが随所に盛り込まれています。

周辺に公園がなかったため、敷地を地域に開放することで、地域の子どもたちが安心して遊べる場とし、4つ中庭を囲むように棟を配置することで、建物内からも子どもを見守ることができます。



### ☆ 健やかな生活を実現する 空気環境配慮仕様「エアキス」

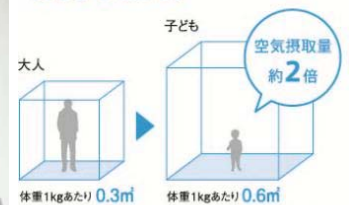
子ども視点の安全安心デザイン 一般部門

「エアキス」は、積水ハウス独自の「化学物質の抑制」と「換気・空気清浄」技術により、健やかな生活を実現する空気環境配慮仕様です。

「化学物質の抑制」は、住宅性能表示制度で定められた5つの化学物質について、大人の2倍健康影響を受けやすいと考えられる子どもを基準に考え、厚生労働省の指針値の2分の1以下の濃度を狙った技術です。「換気・空気清浄」は花粉やPM2.5対策技術を取り入れた換気システムや温湿度コントロールが可能な空調換気システムなど、生活スタイルに合わせたオプション提案により室内の快適性を更に向上させるアイテムです。



室内空気の影響を受けやすいのは、実は子どもたち。



体重1kgあたりで比較すると、子どもは大人の約2倍の空気を摂取しています。室内空気に化学物質が含まれていると、その負荷も大人の約2倍になります。

出典:東京都福祉保健局「化学物質の子どもガイドライン(室内空気編)」

「エアキス」HP

<http://www.sekisuihouse.com/technology/comfortable/airkis/>

### ☆ 子どもの生きる力を育む家「コドモイドコロ」の実践

子どもの未来デザイン 感性・創造性部門

「コドモイドコロ」は、子育て世代向けの積水ハウスの基幹商品。子どもの生きる力を育む住まいづくりとして、子どもの成長に役立つたくさんの居どころづくりと安全安心・自主性を考えたスマートユニバーサルデザインを追求しています。

多くの子育て家族が、「コドモイドコロ」を取り入れ、子どもの生きる力を育む住まいが数多く誕生しています。

子どもの健やかな成長に目を向けた、「積水ハウスのキッズでざいん」の発表から約7年。子どものためのスマートユニバーサルデザインの考えをさらに深めた「コドモイドコロ」は、生活者の手で成長し、多くの居どころが広がっています。



すまい すまいる 子育て子育てLab HP

[http://sumai-smile.net/lab\\_01\\_kosodachi/index.html](http://sumai-smile.net/lab_01_kosodachi/index.html)



## ☆ 安全安心で楽しい子育ての分譲マンション:グランドメゾン/ライフスタイルオプション

積水ハウスの分譲マンション・グランドメゾンでは戸建住宅事業で培ったノウハウを生かし、子育て配慮の提案を入れたマンション開発をおこない、過去3物件がキッズデザイン賞を受賞してきました。

今回その集大成として、分譲マンションのボリュームゾーンである子育てファミリー向け、「スマートユニバーサルデザイン」「コードモイドコロ」などの戸建オリジナル部材や仕様をセレクトしたシステム、「グランドメゾン/ライフスタイルオプション」を新たに展開しました。

各地のグランドメゾン販売センターには、専用のプレゼンコーナーを設け、購入しやすいパッケージ価格も設定することで、「安全安心で楽しい子育ての分譲マンション」の普及を目指しています。

子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門



グランドメゾン HP

<http://www.sekisuihouse.co.jp/gm/>



## ☆ 子どもの生きる力をはぐくむ「弁当の日」応援プロジェクト

(「弁当の日」応援プロジェクトとして応募

【事務局:(株)共同通信社、参加:積水ハウス(株)、キッコーマン(株)、クリナップ(株)、住友生命保険相互会社、全国農業協同組合連合会、東京ガス(株)、ハウス食品グループ本社(株)、はごろもフーズ(株)】

2001年、香川県の小学校で竹下和男校長(当時)が始めた「弁当の日」。弁当の献立づくりから、買い出し、調理、片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身が行う取り組みです。弁当づくりを通じて、“食の大切さ”“作る楽しさ”“作ってもらった感謝の気持ち”を創出し、子どもの感性、成長を育んでいくことを目指しています。

「弁当の日」応援プロジェクトは、この広報・普及・啓発活動の推進とその取り組みを側面からサポートすることを目的として2012年4月に発足、全国各地で開催する学校の取り組みを支えています。また参加企業での自社ノウハウと融合した独自の「弁当の日」イベントの開催も推進しています(積水ハウス、キッコーマン、クリナップ、全国農業協同組合連合会、東京ガス、はごろもフーズ)。

未来を担う消費者デザイン部門



「弁当の日」HP

<http://d.hatena.ne.jp/bentounohi/>

## ☆ 震災で得た教訓を生かした 子どもと女性にやさしい「おりひめトイレ」

日常生活においてトイレは必要不可欠な設備ですが、災害発生時でも変わりはありません。東日本大震災の被災者に被災当時不便だったことをヒアリングしたところ、「トイレ」に対する不満の声が多かったことがわかっています(汚い・臭い・怖い・暗い・壊れている等)。そして、「使いにくい・音もれへの不安・気持ちが萎える」等、女性固有の不安・不満要素もあります。

こうした不安・不満要素から、子どもや女性がトイレの利用を控え健康被害を引き起こす可能性があります。また、親子での外出そのものを控えてしまい、子どもの社会経験体験機会が減ることも考えられます。さらに、政府は建設業での女性就労者を倍増させる方針を打ち出しており、その環境整備の一つにトイレの整備も盛り込まれるなど、女性の社会進出機会においても「トイレ」は重要な設備です。

「おりひめトイレ」は、これらの課題を解決するため、震災で得た教訓を生かして、子どもや女性にやさしく、使いやすい新たな視点の仮設トイレ開発が必要と考え、仙台市、仙台市のクリエイター、積水ハウスの女性技術陣がコラボして取り組んだ事業となります。

復興支援デザイン部門

